

沖縄県薬剤師会 会長 前濱朋子 先生



玉井先生 前濱先生、薬剤師会会長就任おめでとうございます。

前濱先生 ありがとうございます。

玉井先生 今回の就任は2期目ですね。1期2年ですか？

前濱先生 はい、そうです。
2期目は来年6月に終わります。

玉井先生 継続してのご就任になるかと思いますが、ご感想と今後の抱負等ございましたらお聞かせください。

前濱先生 3年前、2021年が1期目で、新型コロナウイルス感染症の流行の最中に会長に

就任し、県との調整や検査キットの販売を薬局で行うかどうかという状況で、県医師会、那覇市医師会の先生方にお世話になりながらなんとかやってこれたという、怒濤の日々の連続で、何が何だか分からないまま1期2年が過ぎたという印象です。

玉井先生 本当に困難な時代でしたよね。
薬剤師の先生方も臨床の最前線にいらっしゃる訳だから、危険と隣り合わせの状況でお仕事しないとイケないですよね。
大変だったのではないですか。

前濱先生 最初は、この感染症がどういうものかよくわからない状況の中、予防衣なども全然手に入らない状態だったので、新型インフルエンザの時の経験以上に大変でした。

新しい業務のワクチンの充填作業は、病院に勤務している薬剤師には経験があっても、薬局の薬剤師にはなかなか経験出来ない事でしたので、看護協会や医師会の先生方にご指導いただくことで実施することができました。薬剤師としてこのようなことも出来るという自信につながったと感じています。

玉井先生 あの時は本当に助かりました。

うちは小さなクリニックですが、お昼休みに、目の前の薬局の薬剤師さんがコロナワクチンを充填しに来てくれて、午後からの準備を薬剤師の先生方がやっていたおかげで、その間にご飯を食べて、午後のワクチン接種の準備をしておりました。

ある意味色々な総力を集結して、立ち向かったという感じがしますし、本当にあの頃は薬剤師の先生方には助けていただきました。集団接種会場にも来ていただき、お手伝いしていただいて、非常に助かりました。

前濱先生 コロナの電話相談窓口も無事に昨日で終了しました。

玉井先生 コールセンターですよ。

現場の薬剤師さんの恐怖感や不安などのお話とかもありましたか？

前濱先生 高齢で疾患を持っている会員は、出来るだけ患者と接触しないとか、コロナの検査キットの販売については、職員が怖がっているので販売したくないというようなことがありました。

経営者、管理者としては、地域貢献なのでやりたいが、現場の職員が対応出来ないために検査キットの販売は出来ないとの声もありました。

玉井先生 ギリギリの判断というか、そのような時代でしたね。



前濱先生 そのような薬局の中には、準備はしているので声がかかったら検査キットを販売してもいいというところもありました。

玉井先生 そういう時に危機に立ち向かって行くという気持ちでどの医療現場においても必死だったという気がします。

前濱先生 コロナがある程度落ち着いてきたときに、県知事主催の会に医療機関の一員として薬剤師会も呼んでいただいた際に、コロナ対応で医療現場が一丸となっていて、その中に私たち薬剤師会も入れていただけたんだなと思いました。

玉井先生 戦友という感じがしますね。

現在の薬剤師会の会員数と活動内容、今特に力を入れている取り組みなどがありましたら教えてくださいませんか？

前濱先生 令和6年4月1日現在で1,245人の会員登録があります。

基本的な活動は、薬剤師の職能に関すること、県民の健康増進に関する事などというところですが、薬剤師の活動は、医療では病院や薬局、公衆衛生では学校薬剤師として学校や給食センターのほか医薬品卸、行政など多岐にわたっています。会としては全ての分野が重要だと考え、関連する部会や委員会を設置し、それぞれの分

野で何か起こった時にしっかりと対応出来るよう活動しているところです。

玉井先生 多岐にわたると思うのですが、私も学校医をやっているのですが、学校薬剤師の先生たちも、色々と関わっていただき、プールの塩素濃度を測定したり、このような活動内容があるんだということを知り、学校保健委員会などで活動的にやっていただいているので、良いですね。

現在、沖縄県は薬剤師数が全国最下位ということで、薬剤師が不足している状況が続いており、薬学部創設が急務となっておりますが、どのような展開が考えられますか。

前濱先生 私の2代前の会長が薬学部設置に向けて種を蒔いてくれ、前会長が署名を集めるなど水をかけ、私の時代に花が咲いてほしいのですが、なかなか上手くいかず、それでも去年2月には、県主催の薬学部設置シンポジウムが開催され、県が薬学部設置に関する基本方針を公表して薬学部設置を希望する県内国公立大学の募集をしました。残念ながら手を挙げるところはありませんでしたが活動はまだ続けています。去った3月24日には2回目のシンポジウムを開催しました。

1回目のシンポジウムは薬剤師不足ということで医療団体を中心に開催しましたが、その後、様々なところに薬学部設置についてお願いに伺ったところ、薬学部設置は薬剤師の養成だけではなく、創薬など様々なところにも影響があると思うので経済界にも声をかけたらどうかという意見があり、2回目のシンポジウムでは、経済界からも加わっていただきました。

このシンポジウムの関連イベントとしてお薬調剤体験を設けましたところ予想以上の申し込みがあり、どの子も楽しそうに取り組んでいて、後で聞くと自分で調剤したマーブルチョコレートを薬の袋に入れ、その袋に朝昼晩食後と書いて、家ではご飯の後に袋から出したマーブルチョコレートを食べるのだそうです。このよ



うなことを見聞きすると、本当に薬剤師になりたい子ども達が経済的理由や遠いから行かすことが出来ないということがないように、子ども達の将来の選択肢を広げて上げられたらいいなと考えています。

もし、3回目のシンポジウムが開催されるとしたら医療界、経済界に加えて、教育界の先生方や薬学部に行きたい生徒も巻き込んで取り組めたらいいなと考えているところです。

玉井先生 県内で養成する機関が無いのは残念なところではありますよね。

前濱先生 先生のお嬢さんも薬剤師なんですね。沖縄に戻って来ていただきたいですね。

玉井先生は私と同年なのですが、私たちの時代は、県外に出せないから琉大の保健学部に行く友達が多かったです。

薬剤師は国家資格で、どこに行っても通用する免許なので選択肢があれば目標に向かって頑張れると考えています。

玉井先生 薬剤師として薬の専門家でありつつ、人との関わりですとか、それぞれの職種によって様々な関わり方があるわけで、様々なチャンネルがあり、その子に合う将来ずっとやっていける職種というものがあればきっとまた選択肢が広がっていくと考えます。

前濱先生 薬剤師も対、人ではあるのですが、間に薬があり、薬には開発・製造が必要です。今、琉球大学農学部等で薬の研究開発も行っていると思いますが、出来たものを医療の現場につなぐ際に薬剤師がいると変わってくるのかなと考えています。

玉井先生 お薬は結局物質でしかない訳で、それを人に投与するという事は、専門的な関わり方が必要ですよ。

前濱先生 そうですね。

先生方が疾患を見極め、薬剤師がお薬の情報提供も出来るので。

玉井先生 お薬はとても大事だと考えます。

今回、サプリで健康被害が起こっていますが、薬剤師会としては今後の関わり方や考えることはありますでしょうか。

前濱先生 会には医薬品情報室があり、そこが窓口となって一般の方から相談を受けていますが、その中で健康被害まではいっていないのですが、病院でもらっているお薬と健康食品の飲み合わせはどうかという問い合わせもあるので、情報提供をしています。

今回死亡例も出ているので、かなり大ごとだと考えています。

玉井先生 私のクリニックにも、多くの方が検査を受けに来ます。

やはり、あれだけ大きな事が起きると、薬やサプリに対してネガティブなイメージがありますし、今全体的にサプリのイメージが少し悪くなっている感じがします。今後、このようなことに対して安心安全ではないですが、そういうものに対してどうやって対応していくか、関わっていくかがとても大事になってきますよね。

前濱先生 窓口で相談を受けたらしっかりと答えられるように、薬剤師会の会報に常にサブ

リメントの情報を掲載していますし、もう少しその辺を強化した方が良いと考えています。

玉井先生 情報提供があると良いのかもしれませんがね。

前濱先生 ただ、紅麹だったので、豆腐よとかに影響が出ていますね。

豆腐ようが大好きなんです。

玉井先生 私は産業医をやっているのですが、食品会社の社長が、頭を抱えてましたね。豆腐ようのイメージが崩壊しているので、風評被害を解決するのは大変だと言っていましたね。全体的な豆腐ようのイメージが落ちてしまうと、これが回復するのに何か月もかかってしまいますので。

前濱先生 サプリでの大量摂取が今回の健康被害を大きくしたようですが、紅麹の製造ロットでも違ったようですね。

玉井先生 そうですね。実際、沖縄県では出していないですよ。

前濱先生 聞かないです。

玉井先生 オーバードーズの問題もありますよね。OTC で様々な薬が手に入る時代になり、例えば漢方薬のオーバードーズも問題になっているかと思いますが、薬剤師会で発信等はしておりますでしょうか。

前濱先生 鎮咳のようなお薬は販売本数制限もあり、販売にあたって注意もするのですが、欲しい人は薬局を転々と回っているので、どこまで規制できるかが課題なのです。

玉井先生は学校医もされていらっしゃるのですが、ご存じかと思いますが、学校薬剤師の活動の中で薬物乱用という部分では、「お薬をたくさん飲み過ぎるのは薬物乱用なんだよ」という

事をこれまでも話しています。乱用を防止するにはやはり教育しかないのかなと考えています。子ども達に、そういう事をするとう身に悪いという事や死に至る事もあるという事を強く伝えないといけないという事で、学校薬剤師部会や日本薬剤師会では資材提供をしてくれています。大麻が2～3年前から注目されていたのでそこにスイッチしておりましたが、今年度、県との事業でオーバードーズのパンフレットやポスター、動画も作成していますので、学校等にも配布する予定です。

玉井先生 これがオーバードーズだという事を認識していない子ども達が結構いると思います。

感冒薬の供給不足についてですが、改善点としてどの様にお考えでしょうか。

前濱先生 そもそも原料が不足しており、震災等があって工場も動きが鈍かったりするので、処方医の先生方にご相談して、疑義照会をして処方変更をしてもらい、患者に納得いただくしかありません。先生方には、疑義照会が増え診療の妨げになる事もあるかと思うのですが、今現場で我々が出来るのは処方変更してもらう事になります。薬の在庫に関して、私の薬局でもそうですが、複数の薬局から薬を分けてもらって在庫として準備している状態です。

玉井先生 根本的な問題ですね。

前濱先生 そうですね。日本薬剤師会は国に働きかけ、医薬品増産の予算も確保されたようですが、お金を出したから作れるかというところではないと考えています。

玉井先生 これはまだまだ続きそうですね。

前濱先生 そうですね。咳止めや鎮咳去痰剤はなかなか難しくて、卸さんも平等に渡そうという事で、今月はダメだけど、2か月後だったらどうにか回せるかもしれませんというように、すごく気を使っていたら、絶対ないとはおっしゃらないです。

ですが、患者は今欲しいので。

玉井先生 コロナとインフルがあまり流行らないことを願うばかりですね。

前濱先生 そうですね。

玉井先生 4月になって、発熱外来が少し落ち着いた気がするのですが、相変わらずインフルもコロナも少しずつつくすぶってますからね。

前濱先生 また連休があって、皆さん旅行に行くと思うので心配です。



玉井先生 沖縄県は5月の連休前後にコロナのピークがやってくるので、これが心配ですね。

今回は、3割負担が適応されています。今日早速ゾコーバを出したのですが、高いですね。どうにかならないかと、もう少し安くしてほしいと思います。

前濱先生 患者の手にしっかり届いて治療をしていただきたいですね。

玉井先生 手に届かないと結局重症化して、医療逼迫になっちゃうので、それを防ぐための薬ではあるはずなのですが、なかなか上手く機能していない部分もありますね。

沖縄県医師会に対してのご意見とかご要望があればお伺いします。

前濱先生 小さな要望なのですが、疑義照会に関してお願いがあります。診療終了間際の処方箋でどうしても疑義照会が必要な場合に、クリニックや病院に電話をかけても、先生がいらっしゃらない事があります。院内のどこかで先生と連絡がつく様な方法を考えて頂けたらと思います。緊急ではなく、残薬があるような患者様だと次回となるのですが、それが金曜日とかで、土日を挟んで、今飲まないといけないんだけどという様な時にすごく困ったりするので、先生方も診療が終わっているので、プライベートの邪魔をするのは申し訳ないのですが、ご協力いただきたいです。

玉井先生 今現状として、供給不足等様々なことがあって、疑義照会についてのドクターの協力を今後ともやってほしいという事ですよ。

前濱先生 病院内で、これは疑義しなくていいなどいろいろ書いてくださってくれるのですが、聞かないといけないものがあつたりするので。

玉井先生 現場の判断が最優先ですよ。そういう様なところで、お互いに協力しあう様な関係というか、本当は連絡しあうのが当たり前ですけどね。

前濱先生 患者にも疑義照会するので時間下さいと言うと、なんであんたたちが電話するの。先生の言うとおりに出せばいいさ。と怒られて、先生にも怒られて、ダブルで怒られるので。

玉井先生 現場は板挟みで大変ですね。私達も現場は患者さんからのクレームなど、様々なものの板挟みになって、大変なところはありますね。それはもう分かっていますので、お互いに連絡しあい、協力しあわないといけないですね。難しい問題ですね。

日頃の健康法やご趣味、座右の銘等がありましたらお聞かせください。



前濱先生 最近、足腰を鍛えないといけないという事で、琉舞を再開しました。会務等でお休みが多いのですが、道場の先生は、生涯学習ねと言ってくれます。琉舞は足腰の鍛錬にはいいと思っています。

玉井先生 そうですね。あれは相当な運動量ですね。

前濱先生 趣味は、旅行です。その土地の物を食すのも旅行の楽しみの1つです。ただ食べるのではなく、コーヒーは身体を冷やし、紅茶は身体を温めると意識すると、コーヒー好きの私が寒冷地に行くと紅茶を欲していて理にかなっていると納得したり、タンナファクルーの形状をしたレーブクーヘンというお菓子がドイツにあって、タンナファクルーに香辛料を混ぜたらそのお菓子になるのではないかと想像したりして楽しんで食べています。

玉井先生 やはり、薬剤師的な血が騒ぐんでしょうね。

前濱先生 これは座右の銘ではないのですが、私の口癖があります。何があっても「楽しかった」と言うようにしていることです。これは、子どもの頃のテレビ番組の世界名作劇場の「小公女セーラ」の主人公が辛くても寝る前に幸せ探しをするシーンがあり、その影響かもしれません。

仕事も楽しくが一番。

玉井先生 本当は、何が無いのかというのを探ることが多くて、でも、足ることを知るという事はとても大事ですね。ここで満足するかしないかという事ではなく、足ることを知るという事ですかね。そういう事をしない限り人は欲望がどんどん膨らんでいきますよね。お金だってそうですし。同じようなものを持っていても、足りないと思う人もいるし、十分と思う人もいるんでしょうね。



PROFILE

昭和 62 年 3 月	名城大学薬学部薬学科 卒業
昭和 63 年 3 月	名城大学薬学専攻科 修了
昭和 63 年 3 月	沖縄県立病院 薬局
平成 10 年 9 月	那覇市薬剤師会 よぎ薬局
平成 17 年 6 月	那覇市学校薬剤師会 会長
平成 23 年 5 月	沖縄県薬剤師会 理事
平成 25 年 5 月	沖縄県薬剤師会 常務理事
平成 25 年 6 月	沖縄県薬剤師会 学校薬剤師部会 部会長
平成 27 年 6 月	沖縄県薬剤師会 副会長
令和 3 年 6 月	沖縄県薬剤師会 会長
至 現在	

前濱先生 先月、大学を卒業して以来 40 年ぶりに同級生に会ったのですが、その同級生に「いつも楽しかったって言っていたよね。」と言われました。あの頃からずっと言っていたんだなと思いました。

玉井先生 僕の口癖は「1つ1つね」です。自分に言い聞かせています。目の前に書類が重なってくるし、やらなきゃいけない事が山のようであって、でも結局1つ1つしか出来ないんですね。常に焦っちゃうんですけど、そこで自分に言い聞かせているのは、「1つ1つね」って言い聞かせています。

前濱先生 では、私は今日から「楽しく、1つ1つ」にしようと思います。

玉井先生 本日はどうもありがとうございました。

今後とも、薬剤師会と沖縄県医師会でタイアップして色んなことができると良いなと思います。

インタビューアー：広報委員 玉井 修